

2025年1月

お得意様各位



軒天 12『トリスタ』と軒天通気見切縁『KBM2N』における標準施工マニュアル制定のご案内

拝啓 貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、軒天 12『トリスタ』と、軒天通気見切縁『KBM2N』を組み合わせでご使用頂く際の、標準施工マニュアルを制定いたしましたので、下記のとおりご案内いたします。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

軒天 12『トリスタ』 : ティンバースタイル YK02□

エンボススタイル YK01□

※□には色番号が入ります。

軒天通気見切縁『KBM2N』: KBM2N□□

※□には色記号が入ります。

準耐火構造認定番号 : 軒裏 30 分準耐火構造適合品 QF030RS-0240

※軒天 12『トリスタ』以外の軒天材には上記認定は適用されません。

※軒天通気見切縁本体に塗装を施した場合は上記認定が適用されません。

詳細につきましては、別紙の標準施工マニュアルをご参照ください。

以上

< 別紙 >

軒天12『トリスタ』と軒天通気見切縁『KBM2N』における標準施工マニュアル

●軒天12トリスタ(軒天通気見切縁KBM2N)標準施工法 QF030RS-0240

30分準耐火構造適合品／品番:KBM2N□□ 認定番号 軒裏:QF030RS-0240
 ※軒天12トリスタ以外の軒天材には認定が適用できません。
 ※軒天通気見切縁本体に塗装を施した場合は認定が適用できません。

●下地組み

野縁梯子組:軒の出方向は500mm以下、幅方向は455mm以下の間隔で野縁(幅:30×高さ:40mm以上)を組みます。

軒天材の左右接合部は野縁2本組みとします。

軒の出が500mmを超える場合、軒の出@500mm以下に吊り木(吊り木@1000mm以下)で吊ります。

●下地の不陸は3mm以下に調整します。

※ボルト頭や下地組みの不陸・ねじれなどは仕上がりに影響するばかりでなく、無理な施工から軒天材の破損をまねくおそれがあります。

●軒天材の切断はオールダイヤモンドチップソーを使用します。

●軒天材の留め付けは専用釘(ステンレスリング釘φ2.5mm×45mm)を用い、野縁梯子組:軒の幅方向・出方向ともに225mm以下の間隔で留め付けます。

●軒天材端部の釘打ち位置は端あき20~35mmとします。

●取り付けには専用タッピングネジ(別売:Φ3.8×28.5mm)を使用します。KBM2N取り付け後、軒天材を取り付けます。

●KBM2N本体が長い場合は所定寸法に切断します。切断部は同色の補修液(別売)を塗布します。

●出隅カバーは、KBM2N本体の片側にカバーを差し込むように嵌合させ、KBM2N本体を野縁にビス留めし、もう片方のKBM2N本体をカバーに差し込むように嵌合させ、野縁にビス留めします。

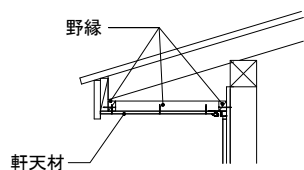
※塩害のおそれのある場所(海岸から5km以内)では、錆が発生する場合があります。

※片流れ屋根の水上側など、逆勾配の軒天への使用はしないでください。

軒の出が113(壁勝ち)~500mm以下の場合

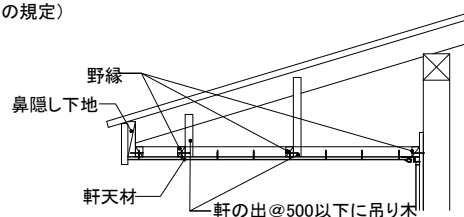
軒の出が88(軒勝ち)~500mm以下の場合

(防火認定上の規定)

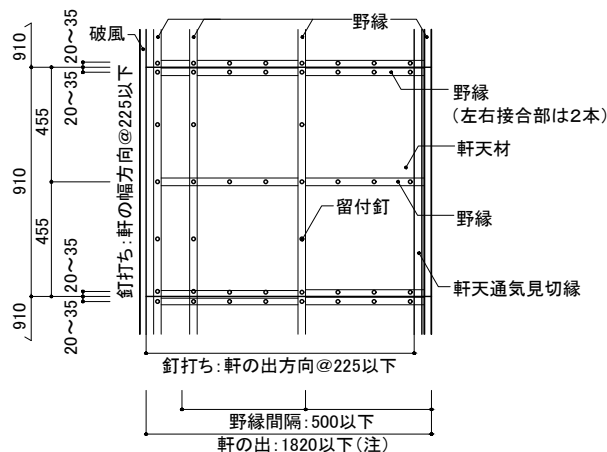
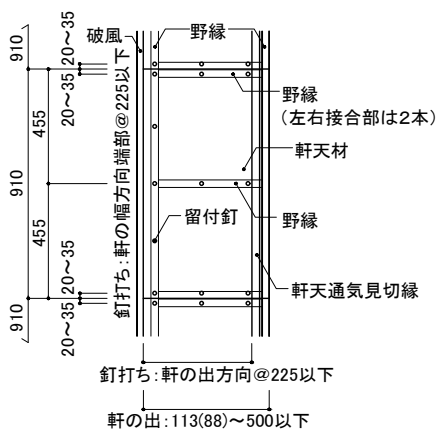


軒の出が500~1820mm以下(注)の場合

(防火認定上の規定)



野縁梯子組



(注)認定は最大寸法で取得しておりますが、製品寸法により上限値は1820mmとなります。